

へ鑛山所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官試掘又ハ採掘ノ事業公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ届書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長ニ其意見ヲ通知シ採掘ニ就テハ農商務大臣ニ其意見ヲ上申スヘシ

第八條 試掘地若クハ鑛區ノ訂正ヲ出願スルトキハ總テ試掘若クハ採掘ヲ出願スルトキノ手續ニ依ルヘシ

第九條 試掘延期ハ滿期三十日前ニ出願スヘシ

前項ノ願書ニハ試掘ノ成績及ヒ事業ヲ竣ヘ難キ事由ヲ明記スヘシ

第十條 鑛業條例第十三條ニ依リ鑛物ノ存在ヲ證明スルニハ其鑛物ノ標品ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

但舊坑又ハ地質鑛床ノ狀況ニ依リ出願鑛物ノ存在ヲ證明シ得ルトキハ標品ヲ要セス此場合ニ於テハ採掘願書ニ其證明書ヲ添フヘシ

第十一條 標品ハ本則第二十六條第二項ノ手續ニ依リ採掘願書ト同日ニ差出スカ又ハ出願ノ日ヨリ七日以内ニ所轄鑛山監督署ニ持參スヘシ

但流動物其他郵便ニテ差出スヲ得サル標品ハ出願ノ日ヨリ七日以内ニ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ差出スヘシ

第十二條 鑛業特許證ノ書換又ハ採掘權書入ノ登錄ヲ出願スル者ハ其願書ニ鑛業特許證ヲ添フヘシ

第十三條 坑内實測圖ハ毎年一月七月ノ兩度ニ之ヲ調製シ前半期末日ノ現況ヲ記載スヘシ

坑内實測圖ハ前項調製期中ニ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

第十四條 鑛業條例第三十一條第三項ノ證明書ヲ必要トスル者ハ其理由ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ

第十五條 鑛業特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ十日以内ニ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十六條 鑛業條例第三十九條ノ届書ハ鑛業ヲ廢止又ハ讓渡シタル場合ニ於テハ廢業又ハ讓渡ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

第十七條 鑛業條例第四十七條ニ依リ測量ノ認可ヲ受ケントスル者ハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ

但土地ノ管理者ニ於テ承諾シタルトキハ認可ヲ要セス

第十八條 鑛業條例第三十五條第三十六條又ハ第五十五條ニ依リ鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ詳細ノ實測圖其他關係書類ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

鑛業條例第五十五條土地貸渡ノ場合ニハ前項書類ノ外建設スヘキ工事ノ設計書ヲ添フヘシ

第十九條 鑛山監督署長ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ

相當ノ期限ヲ定メ辯明書ヲ差出サシムヘシ

第二十條 試掘人ハ試掘地圖ヲ鑛業人ハ左ノ書類ヲ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

一 鑛區圖

二 坑内實測圖

三 鑛業施業案

四 鑛業條例第四十條ノ帳簿

第二十一條 鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ其鑛山ニ代理人ヲ置クヘシ

第二十二條 鑛業ヲ相續シタル者ハ市町村長ノ證明ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

但採掘權ヲ相續シタル者ハ其届書ニ鑛業特許證ヲ添フヘシ

第二十三條 鑛業人廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第二十四條 鑛業條例第三十條第三十三條第二項第三十四條第二項第四十三條第二項及ヒ第七十六條ニ依リ行政裁判所ニ出訴シタルトキ及ヒ同條例第三十四條第一項ニ依リ農商務大臣ニ訴願シタルトキハ七日以内ニ其旨所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第二十五條 鑛山監督署ニ差出スヘキ書類ハ鑛山監督署支署ノ管轄區域内ニ於テハ之ヲ支署ニ差出スヘシ

第二十六條 鑛業ニ關スル書類ハ一通毎ニ一件ヲ限リ認ムヘシ

試掘願書採掘願書及ヒ其添附圖面ハ總テ一件毎ニ別封トシ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ其修正若クハ補充ニ係ルモノ亦同シ

前項ノ書類ヲ差出ストキハ發送郵便局ヨリ受付ノ年月日及時刻ヲ記入シタル受領書ヲ請受クヘシ

第二十七條 鑛業ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス

試掘又ハ採掘ノ出願ニ就キ日時ノ前後ヲ定ムルニハ前條第三項ノ日時ヲ以テス

第二十八條 鑛業ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

第二十九條 左ニ掲クル願書請求書及圖面ハ之ヲ受理セス

一、明治二十五年勅令第二十六號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セサル願書又ハ請求書

二、圖面添屬ナキ試掘又ハ採掘願書

三、添屬圖面中出願區域不分明ナル試掘又ハ採掘願書

四、添屬圖面ニ鑛物存在ノ簡處ヲ明示セサル採掘願書

五、本則第二十六條第二項ノ手續ニ據ラサル試掘又ハ採掘願書及圖面
 六、本則第二十六條第二項ノ手續ニ據ラサル試掘地又ハ鑛區訂正願書及圖面
 七、他人ノ許可地内ニ於テ同一鑛物ノ試掘又ハ採掘願書
 第三十條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス
 一、本則第六條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ願書又ハ圖面ヲ差出サ、ルトキ
 二、本則第十一條ノ手續ニ據リ鑛物標品又ハ證明書ヲ差出サ、ルトキ
 第三十一條 本則第十三條第二項又ハ第十六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十二條 本則第七條第一項第二十條第二十一條第一項及ヒ第二十四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 第三十三條 本則第十五條第二十一條第二十二條及ヒ第二十三條ヲ犯シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
 附 則
 第三十四條 鑛業條例實施以前ニ差出シタル試掘願書若クハ借區願書ニシテ同條例實施ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ同條例ニ依ル試掘願書若クハ採掘願書ト看做シ處分スヘシ

第三十五條 鑛業條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得タル者借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスルトキハ滿期六十日前ニ出願スヘシ
 第三十六條 日本坑法ニ基キ發布シタル工部省布達及ヒ農商務省令ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス
 書式(用紙美濃紙)
 第一號(正副二通)
 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ
 何府縣國郡市町村大字

小字	全地	官地又ハ民地	何坪
小字	官地又ハ民地	地種地目	何坪
小字	官地又ハ民地	地種地目	何坪
小字	官地又ハ民地	地種地目	何坪
合計	ノ内	地種地目	何坪

右ノ場所ニ於テ何鑛試掘致度候間認可相成度圖面相添ヘ此段相願候也
 住所族籍
 願人 氏名印
 但組合人アラハ連印スヘシ
 年月日
 何鑛山監督署長氏名殿
 第二號(正副二通)
 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試掘地訂正願

何年何月何日認可第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

増若ク減 何市町村大字小字

官地又ハ民地
地種地目

合計若ク差引 何坪

右ノ場所ニ於テ試掘致候處何々事由ヲノ爲メ區域訂正致度ニ付認可相成度別紙訂正試掘地圖相添
ハ此段相願候也

住所族籍

礦業人

氏名印

又ハ共同礦業人總代 氏名印

何鑛山監督署長氏名殿

第三號(正副二通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試掘延期願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

何坪

右ノ場所ニ於テ試掘致候處何々事由ニ付尙試掘繼續致度候間延期認可相成度此段相願候也

住所族籍

礦業人

氏名印

何鑛山監督署長氏名殿

第四號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

何鑛採掘特許願

何府縣國郡市町村大字

小字

官地又ハ民地
地種地目

何坪

小字

官地又ハ民地
地種地目

何坪

合計 何坪

右ノ場所ニ於テ(標品若クハ證明書)ノ通り鑛物存在候ニ付採掘致度候間特許相成度鑛區實測圖面
相添ハ此段相願候也

又ハ共同礦業人總代

氏名印

住所族籍

願人

氏名印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣氏名殿

第五號(正副二通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛區訂正願

何年何月何日認可第何號

一何府何國郡市町村大字小字

增若減 何市町村大字小字 官地又ハ民地 何坪
地種地目

合計ハ差引 何坪

右ノ場所ニ於テ採掘致候處何々事由ヲノ爲メ鑛區訂正致度ニ付許可相成度別紙理由書訂正鑛區圖
及ヒ鑛業特許證相添ヘ此段相願候也

年月日

住所族籍

鑛業人

氏名印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

農商務大臣氏名殿

第六號(正副二通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛業特許證書換願

何年何月何日特許

一第何號鑛業特許證

右採掘權今般(賣買又ハ讓與)ノ契約相整候ニ付鑛業特許證書換相成度特許證相添ヘ此段相願候也

年月日

住所族籍

賣渡又ハ讓渡人

氏名印

又ハ共同鑛業人總代氏名印
共同鑛業人半數以上連署連印スヘシ

住所族籍
買受又ハ讓受人
氏名印
但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣氏名殿

第七號

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

採掘權書入登録願

何年何月何日特許第何號

一何府何國郡市町村大字小字

何坪

右今般何府縣國市町村大字番地何某ニ金何圓何十何錢ノ抵當トシテ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄書入ノ契約相整候間登録相成度連署連印ヲ以テ此段相願候也

年月日

住所族籍

鑛業人

氏名印

又ハ共同鑛業人總代氏名印
共同鑛業人半數以上連署連印スヘシ

債權者

氏名印

但連帶債權者アルトキハ連署連印スヘシ

何鑛山監督署長氏名殿

第八號(正副二通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛區合併願

何年何月何日特許第何號
一何府縣國郡市町村大字小字 何坪
何年何月何日特許第何號
一何府縣國郡市町村大字小字 何坪

合計 何坪

右鑛區合併致度候間許可相成度別紙合併鑛區圖並ニ鑛業特許證相添へ此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所族籍
鑛業人 氏名印
又ニ共同鑛業人總代 氏名印

第九號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛區分割願

何年何月何日特許第何號
一何府縣國郡市町村大字小字 何坪
此分割
一何府縣國郡市町村大字小字 官地又ハ民地 何坪
一何府縣國郡市町村大字小字 官地又ハ民地 何坪
一何府縣國郡市町村大字小字 官地又ハ民地 何坪
一何府縣國郡市町村大字小字 官地又ハ民地 何坪

右ノ通鑛區分割致度間許可相成度別紙分割鑛區圖及鑛業特許證相添へ此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所族籍
鑛業人 氏名印
又ニ共同鑛業人總代 氏名印

第十號

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛業特許證再下附願

何年何月何日特許第何號
一何府縣國郡市町村大字小字 何坪
右特許證何々事由ノ爲メ毀損(若クハ亡失)致候間更ニ御下附相成度此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所族籍
鑛業人 氏名印
又ニ共同鑛業人總代 氏名印

雛形第一號(圖式略之)

雛形第二號(圖式略之)

第二號(正副二通)

明治何年鑛業施業案

何府何町大字何小字
何鐵山何鐵
借區券番號借區並坪數
特許證番號借區並坪數

鑛業人 氏 名
又ハ共同鑛業人總代 氏 名

開坑ノ部
工程
何堅坑 長掘延何尺
何堅坑 同
何通氣坑 同
何運搬坑 同
何 同
何 同
計開坑切地 掘延何尺
工數
坑夫 延人員何人
手子 同
支柱夫 同
車夫 同
火夫 同
實人員何人

機械夫 同
雜夫 同
運搬夫 同
計 同
原動機 何式 何馬力 何臺
水車 同
機關 同
機械 同
通氣ノ方法 一分時間何立方尺 燃燒質瓦斯ノ有無
排水ノ方法 一分時間何立方尺
運搬ノ方法
新炭消費高
記事(堅坑機械通氣坑運搬坑等開鑿ノ目的方法及之レカ爲メ要スル處ノ機械卷揚機等ノ建築
及其使用ノ方法ヲ詳記スヘシ)
採鐵ノ部
工程
採鐵額 何貫目 何立方尺
內譯
何鐵 同
何鐵 最低含有高百分中何々
工數 同
坑夫 延人員何人 實人員何人

手子	同	同
支柱夫	同	同
車夫	同	同
火夫	同	同
機械夫	同	同
雜夫	同	同
運搬夫	同	同
計	同	同
原動機 氣力或 水力車	何式	何馬力
機關	同	何臺
機械	同	同
通氣ノ方法	同	同
排水ノ方法	一分時間何立方尺	燃焼費瓦斯ノ有無
運搬ノ方法	一分時間何立方尺	
薪炭消費高		

記事(採掘ノ方法及ヒ之レカ爲メ要スル處ノ機械並ニ其建築及使用方法ヲ詳記スヘシ)
右之通施業致度候間認可相成度候也

明治二十五年三月 日

何鑛山監督署長氏名殿

右
鑛業人
氏名印
スハ共同鑛業人總代
氏名印

第四號鑛業條例第三十九條屆書(略之)
第五號鑛業條例第四十條帳簿(略之)

○鑛業警察規則 明治二十五年三月
農商務省令第七號

鑛業警察規則左ノ通相定ム

鑛業警察規則

- 第一條 鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑内ノ奥部ニ於テ連續シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但同時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山ト雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ設ケシムルコトアルヘシ
- 第二條 堅坑ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ卷揚堅坑中人音ノ達セサル場所ニハ通信機ヲ設クヘシ
- 第三條 卷揚臺ヲ用井テ人ヲ昇降セシムル堅坑ニハ板圍アル堅牢ノ梯子道ヲ設クヘシ
- 第四條 堅坑内ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以内トシ少クトモ三十尺毎ニ階柵ヲ設クヘシ
- 第五條 採鑛場ノ外總テ丸木梯子ヲ用ユルコトヲ得ス
- 第六條 人ヲ昇降セシムル卷揚臺ニハ安全機及上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ卷揚臺ニ用井ル繩綱ハ少クトモ重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ要シ昇降ノ速方ハ一分時間ニ六百尺ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 坑内自轉車道及ヒ機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ幅三尺以上ノ人道ヲ設クヘシ

前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ少クトモ距離二十間毎ニ避害所ヲ設ケ白色ニ塗り置クヘシ

避害所ハ幅六尺奥行軌道ヨリ六尺以上タルヘシ

第八條 堅坑ノ上下周圍ニ於ケル交通運搬ノ用ニ供スル坑道ハ堅坑ヨリ六尺以上ノ距離ヲ置クヘシ

交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上タルヘシ

第九條 金屬山ニ於テ一分時間少クトモ鑛夫一人ニ付五十立方尺牛馬一頭ニ付二百五十立方尺ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ

石炭坑ニ於テハ前項通氣量ヲ二倍以上ニ増加スヘシ

第十條 破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ之ヲ安全ノ度ニ稀薄ナラシムルマテ通氣量ヲ増給スヘシ

前項ノ石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ巡視セシムヘシ若シ危險ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ入坑キジムルコトヲ得ス

第十一條 新空氣ノ送入ニ付テハ其送入口ヨリ最遠ノ工場ニ直送シタル後分岐シテ他ノ工場ヲ周流スルノ装置ヲ爲スヘシ

第十二條 安全燈ハ鑛夫ノ入坑毎ニ破損其他危險ノ虞ナキヤ否ヤヲ検査シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

鑛夫ハ安全燈ヲ開クコトヲ得ス

第十三條 安全燈ヲ用非ル坑内ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ携帯スルコトヲ得ス

第十四條 鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

使用ノ後殘餘アルトキハ出坑ノ節坑口ニ於テ還付セシムヘシ

第十五條 裝藥ノ際鐵製込棒ヲ使用スルコトヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ外使用スルコトヲ得ス

導火線ニ點火スルモ破裂セサルトキハ點火後少クトモ十五分間ハ同場所ニ近寄ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ其破裂藥ハ之ヲ掘出スコトヲ得ス

第十六條 同一鑛区内ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ採掘ノ許可ヲ得タル鑛物ノ鑛脈交又スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利ヲ損セサル様協議ノ上試掘又ハ採掘スヘシ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長

ノ指定スルトコロニ依ルヘシ

第十七條 試掘ノ認可若クハ採掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢業シタルトキハ危險ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ様修理スヘシ

第十八條 鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十九條 農商務省鑛山局員及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ監視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ査閱スルコトヲ得

第二十條 鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事由ヲ届出ツヘシ

第二十一條 鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第七十二條ノ救恤規則ハ鑛夫ノ視易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第二十二條 本則ニ違反シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモノハ明治二十五年九月三十日迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ

前項ノ期限ハ本則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十四條 本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

○鑛物標品差出方

明治二十五年三月 農商務省告示第四號

鑛業條例施行細則第十條ノ鑛物標品ハ方一寸以上三寸以下ノモノヲ箱詰トシ箱ノ内外ニ採取地名出願年月日及願人ノ氏名ヲ明記シテ差出スヘシ但鑛物流動體ナルトキハ三勺以上一合以下ヲ同様ノ封裝ニテ差出スヘシ

○坑内實測圖調製方

明治二十五年三月 農商務省告示第五號

鑛業條例第三十一條ニ據リ差出スヘキ坑内實測圖ハ坑道ノ延長夥多ナル鑛區ニ在リテハ初度ノ分ニ限リ別ニ配附スル離形ニ從ヒ鑛區ノ全部ヲ千二百分ニ調製差出シ爾後追補ニ係ル分ハ同離形ニ準シ増加ノ坑道ノミヲ記載シ差出スモ妨ケナシ此場合ニ於テハ前キニ差出シ置キタル圖面ト接續ノ關係ヲ明瞭ニ記スルコトヲ要ス

○鑛業條例中ノ出張吏員旅費日當納付手續治

明治二十五年四月 農商務省令第九號

鑛業條例第十四條第三十一條第四項及ヒ第四十五條ニ依リ旅費日當ヲ納付スル手續左ノ通相定ム

第一條 鑛業條例第十四條第一項第三十一條第四項及第四十五條第一項ニ

依リ吏員ノ出張ヲ命シタルトキハ鑛山監督署長ハ出張吏員ノ氏名及ヒ旅費日當ノ概算額ヲ出願人又ハ鑛業人ニ通知スヘシ

第二條 出願人又ハ鑛業人ハ前條ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ旅費日當ノ概算額ヲ出張吏員ニ交付スヘシ

第三條 出張吏員ハ實地臨檢ヲ終ヘタル後旅費日當ノ精算ヲ爲シ過不足アルトキハ鑛山監督署長ヨリ之ヲ出願人又ハ鑛業人ニ通知シ出張吏員ヲシテ超過額ヲ返付シ又ハ不足額ヲ追求セシムヘシ

○御料地官有地ニ係ル試掘及採掘出願ノ件

明治二十五年四月
農商務省訓令第七號

鑛山監督署

試掘若クハ採掘ノ出願御料地若クハ官有地ニ係ルトキハ主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

○鑛業條例施行細則第七條及明治二十五年農

商務省訓令第四號ノ上申書

明治二十五年四月
農商務省訓令第六號
北海道廳 府廳

鑛業條例施行細則第七條及明治二十五年農商務省訓令第四號ノ上申書ハ所轄鑛山監督署ニ回送スヘシ

○採取行業明細表調製差出方

明治二十五年五月農
商務省訓令第十四號
北海道廳 府縣

採取行業明細表ハ従前ノ通明治十三年工部省第六號布達離形ニ照準調製セシメ翌年一月三十一日限リ取纏メ差出スヘシ
但一箇年一表ニ調製セシムヘシ

○採掘特許者ニアラサル鑛物製練業者取締方

明治二十五年五月
農商務省訓令第十五號

北海道廳 府縣

採掘特許者ニアラスシテ鑛物製練業ニ従事スルモノアルトキハ左ノ二項ニ準據スヘシ

一新規従事ノ場合ニ於テハ製鍊場ノ位置、製鍊人ノ族籍姓名ヲ其都度報告スヘシ爾後廢業其他ノ異動ヲ生シタルトキモ亦同シ

一製鍊人ヲシテ左ノ離形ニ依リ前一箇年ノ工程ヲ製鍊行業明細表ニ調製セシメ翌年一月三十一日限リ取纏メ差出スヘシ

治 年 製 鍊 行 業 明 細 表											
計 合				高 入 買				高			
				計				品 製			
記 事				業 行		高					
				製 鍊 工 數	製 鍊 日 數	品 製				品	
										計	

明											
越					製 鍊 人	置 位 場 鍊 製		縣 府			
品 製						字 大	字 小	國			
計					郡			村			
殘			賣						販		
製			價			代			量 數		
			計								

離形(用紙美濃紙)

計	合			高出製			高鍊製		
	計								

注意

一 鑛品高ノ單位ハ貫量ヲ用ユヘシ
 一 製品高ノ單位ハ金銀ハ匁其他ハ凡テ斤量ヲ用ユヘシ

○ 鑛業條例第三十九條屆書ニ記入方
明治二十五年五月農商務告示第八號

本年分鑛業條例第三十九條屆書ニハ六月一日ヨリ十二月三十一日マテノ事實ヲ記入スルモノトス

○ 砂鑛採取出願手續願
明治二十五年六月農商務省令第十二號

砂鑛採取出願手續相左ノ通相定ム

砂鑛採取出願手續

第一條 明治十二年工部省布達第十四號ニ依ル砂鑛採取願書及圖面ハ自今所轄鑛山監督署ニ差出ス可シ

第二條 前條ニ依リ出願ヲ爲シタル者ハ三日以内ニ願書及圖面ノ寫ヲ添へ採取地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官採取ノ事業公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ届書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ

○ 森林

○官有森林交換規程 明治二十四年九月
農商務省訓令第三十八號

大林區署

官有森林交換規程左ノ通相定ム

官有森林交換規程

第一條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換セントスルトキハ此規程ニ準據スヘシ

第二條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換スルコトヲ得ルハ官有森林ノ經營上必要ノ土地ニシテ少クモ評定價格相均シキモノニ限ル

第三條 交換ヲ爲サントスル官有森林アルトキハ申込ノ期日ヲ定メ揭示若クハ官報新聞紙及其他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ公告スヘシ

但特別ノ緣故アル官有森林又ハ官ニ於テ特ニ必要ナル民有地ノ交換ハ公告ノ法ヲ用弁ス

一 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ所在地及其字地番號

二 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ實測段別

三 交換ヲ爲サントスル官有森林產物ノ種類及數量

但樹木ノ數量ハ本數並ニ材積ヲ示スヘシ

四 交換ニ應スヘキ民有地目ノ種類

第四條 前條ニ因リ交換ヲ申込マントスルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ

書面ヲ差出サシムヘシ

一 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ所在地及其字地番號

二 交換ノ爲メ提供スル民有地目

三 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ段別及其土地ノ價格

四 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野產物ノ種類數量及價格

但田畑ニシテ產物ト共ニ交換セントスルトキハ本項ニ準スヘシ

五 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ地形ヲ示セル繪圖面

但隣接地目及最近官有森林トノ位置及距離ヲ記載スヘシ

第五條 交換ノ書面ヲ差出シタルモノアルトキハ提供ノ民有森林原野若クハ田畑ヲ實査シ經營上最モ必要ナルモノヲ撰ヒ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ請クヘシ

一 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野若クハ田畑ノ實測段別

及地形並四隣ノ景況ヲ示セル明細繪圖及其土地ノ評定價格

二 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野田畑產物ノ種類數量並

評定價格

三 交換ノ利害ニ關スル意見

第六條 民有森林原野若クハ田畑ヲ實測シ及產物ノ數量ヲ算定スルニハ出願人ヲ立會セシムヘシ

第七條 森林原野田畑及產物ノ評定價格ハ評價人ノ評價ニ依ルヘシ

第八條 提供ノ民有森林原野若クハ田畑ニシテ交換ヲ爲スニ適當ナルモノト認メタルトキハ直稅分署及登記所ニ照會シテ出願人ノ所有物ニ相違ナキヤ且其物ニハ他ノ權利ノ附著スルコトナキヤヲ確ムヘシ

○官有森林原野及產物特賣規程 明治二十四年九月 農商務省告示第八號

官有森林原野及產物特賣規程左ノ通り相定ム

官有森林原野及產物特賣規程

第一章 通則

第一條 森林原野及產物ノ特賣ハ總テ本規程ニヨリ施行スルモノトス

但原野ノ豫約賣渡ハ此限ニアラス

第二條 左ノ諸項ノ一ニ觸ルモノハ特賣ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 森林原野及產物ニ關スル損害賠償若クハ違約金辨償ヲ終ヘサルモノ
- 二 賣渡スヘキ物件ニ對シ罪ヲ犯シタルモノ

第三條 特賣ヲ願フモノハ第一號乃至第四書號式ニヨリ願書ヲ差出スヘシ 但其願旨建築及土木材用ニ係ルモノハ之カ設計書地所ニ係ルモノハ實測圖及隣接地ノ略圖事業用材ニ係ルモノハ事業方法書ヲ添付スルヲ要ス

第四條 賣買當事者第五號書式ニ準シ契約書ヲ作り雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クヘシ

賣渡代金五拾圓以上ナルトキハ賣買契約締結ノ際買受人ヨリ賣渡代金十分一ニ當ル内金ヲ契約保證金トシテ拂込ムヘシ

第五條 契約ノ金額五拾圓ニ滿タサルモノハ第六號書式ノ請書ヲ以テ契約書トナスコトヲ得

第六條 契約書其他契約ニ關スル書類ニ記載アル事項ノ一部分ニ變更ヲ要スルトキハ其部分ニ付箋シ雙方署名捺印スヘシ

第七條 特ニ使用ノ目的ヲ定メテ特賣ヲ受ケタル場合ニハ當該官廳ノ許可ヲ得スシテ其目的ヲ變更シ又ハ他ニ轉賣讓與スルコトヲ得ス

第二章 代價拂込 物件引渡

第八條 買受人約定日限内ニ買受代金ヲ完納シタルトキハ其買受物件ヲ管理スル官廳ニ出頭シテ拂込證ヲ示シ之カ引渡ヲ請求スヘシ賣渡物件ハ其代價ノ幾分ヲ拂込ムトモ之ニ對スル内渡ヲ爲サルモノトス

第九條 賣渡物件所管ノ官廳前第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ約定ノ日限内ニ之ヲ引渡スヘシ

第十條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第七號書式ノ領收書ヲ作り當該官廳ニ差出シ約定ノ日限内ニ其物件ヲ所在地ヨリ搬出スヘシ

第十一條 買受物件ノ搬出ヲ終リタルトキハ五日以内ニ其旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第十二條 物件ノ所有權ハ引渡ヲ受クルニ隨ヒ買受人ニ移轉シ當該官廳ハ之カ保管ノ責ニ任セス

第三章 違約處分 損害賠償

第十三條 左ノ場合ニ於テハ締結ノ契約ヲ解除シ違約金トシテ當初拂込ノ契約保證金ヲ還付セス尙損害アルトキハ之ヲ賠償セシムヘシ

但賣渡代金五拾圓未滿ナルトキハ違約金ヲ徵セサルモノトス

一 買受人賣買契約締結後代金ヲ豫定ノ日限内ニ拂込マサルトキ

但天災其他不可抗ノ原因又ハ豫メ當該官廳ノ許可ヲ受ケタルモノ

ハ此限ニアラス

二 買受人約定ノ日限内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキ

三 買受人賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ本規程ニ違背スルカ又ハ契約ノ取消ヲ請求シタルトキ

第十四條 賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ當該官廳已ヲ得サル事故

ニヨリ契約ヲ取消シタルトキハ第十三條ニ準シ其違約金ニ當ル金額ヲ交

付シ尙損害アルトキハ之カ賠償ヲナスモノトス

第十五條 第七條ノ規程ニ違ヒ許可ヲ得スシテ轉賣讓與ヲ爲シ又ハ目的外

ニ使用シタルモノハ當初賣渡代金ニ等シキ金額ヲ徵收シ尙損害アルトキハ之ヲ賠償セシムヘシ

第十六條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタル後豫期外ノ障礙ニ遭ヒ之ヲ約定日

限内ニ搬出シ終ルコトヲ得サルトキハ其事由ヲ具シ最初定メタル期限ノ

半數ヨリ長カラサル期限ヲ定メテ搬出日限ノ延期ヲ請求シ當該官廳ノ許

可ヲ受クヘシ

此場合ニ於テ當該官廳ハ左ノ割合ヲ以テ其間ノ該物件置場ニ係ル借地料

ヲ課シ之ヲ前納セシムヘシ

一 賣渡代價百圓以上ノモノハ 一日ニ付其千分ノ一

二 賣渡代價百圓未滿ノモノハ 一日ニ付金拾錢

但天災又ハ不可抗ノ原因ヨリシテ搬出延期ヲ要スル事由アルモノハ

特ニ借地料ヲ免除シ又ハ期限ヲ伸長スルコトヲ得

第十七條 前條ニヨリ搬出延期ヲ許可シタル後天災又ハ不可抗ノ原因アル

ニアラスシテ尙再ヒ延期ヲ請求スルコトアルモ當該官廳ハ其求ニ應セザ

ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ搬出未済ノ物件ニ對スル所有權ハ當該官廳ニ復歸スル

モノトス但既納ノ代金ハ還付セス

第十八條 第十六條ノ場合ニ於テ買受人搬出延期ノ請求ヲ爲サス恣ニ約定

日限ヲ過キタルトキハ當該官廳ハ同條ノ割合ニ二倍スル借地料ヲ取立ツヘシ

第十九條 買受人又ハ其雇人若クハ代理人買受物件ヲ伐採蒐集若クハ製造運搬等ノ際ニ於テ當該官廳ニ損害ヲ與ヘタルトキハ當該官廳ハ之ニ對スル賠償金ヲ要求スヘシ

第四章 雜件

第二十條 賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ天災又ハ不可抗ノ原因ニヨリ目的ノ物件ヲ亡失毀損シタル爲メ契約ヲ解除シ之カ爲メ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セス
前項ノ場合ニ於テ契約ノ解除ヲ要セス其毀損部分ノ更正ニ止メ尙繼續履行キントスルトキハ第六條ノ手續ニ準スヘシ

第二十一條 賣渡物件ハ當初買受人ニ於テ熟覽シタルモノニ付賣買契約締結後數量若クハ品質ニ多少ノ差違アリ又ハ内部瑕疵等ノ爲メ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セス

第二十二條 立木竹生草等賣渡ノ場合ニ於テ其根株ハ賣渡外ノモノトス

但特別ノ契約アルモノハ此限ニアラス

第二十三條 買受人代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ履行セシムルトキハ買受人ハ其旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第一號書式(用材出願ノ式)

立木拂下願

何國何郡何町大字何々字何官林ノ内凡段別何程一何木何本

此尺ノ何程

代金何圓

一何木何本

此尺ノ何程

代金何圓

合木數何程

此尺ノ何程

代金何圓

右ハ何々(特賣ヲ受得ルノ事故)ノ爲メ入用ニ候處何々(特賣ヲ受ケサルヲ得サル事由)ニ付御拂下被成下度明治何年何月何日森林原野及產物賣却規程ヲ遵守此段奉願候也
明治何年何月何日

住所

族籍

氏

名

當該官廳長官宛

第二號書式(薪炭材出願ノ書式)

立木拂下願

何國何郡何町大字何々字何々官林ノ内凡段別何程
一何木何本

此棚敷何程 壹棚ニ付
金何程

代金何程

同國同郡何町大字何々字何々官林ノ内凡段別何程
一何木何本

此棚敷何程 壹棚ニ付
金何程

代金何程

合木敷何程

此棚敷何程

代金何程

右ハ云々(第一號書式ニ同シ)

第三號書式(副産物出願ノ式)

何々拂下願

何國何郡何町大字何々字何々官林ノ内
一何々何程

代金何圓 壹(束賣等)ニ付
金何程

(年季出願ノモノハ左ノ通標記スヘシ)

何國何郡何町大字何々字何々官林ノ内

一何々何程 但明治何年ヨリ同何箇年マテ何年季

代金何圓

此一箇年分何程

壹(束賣等)ニ付
金何程

代金何圓

右云々(第一號書式ニ同シ)

第四號書式

森林(原野)拂下願

何國何郡何町大字何々字何々

一何々(地目)段別何町何段何畝何歩
何國、、、、

一何々(地目)段別何町何歩ノ内

段別何段何畝何歩

合計段別何段何畝何歩

(實測段別ハ並記スヘシ)

右ハ云々(第一號書式ニ同シ)

第五號書式

賣買契約書

印紙 此印紙ハ賣人へ領收シ置クモノ
ノミ買人ヨリ貼付スルモノトス

何國何郡大字何々字何々官林

一何々(樹種等)何々

此代金何程

今般前番ノ通り賣買契約締結候ニ付テハ明治何年何月官有森林原野及産物特賣規程及左記ノ條
項ヲ承諾シ雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也

年月日

賣人 當該官廳長 官 氏 名印
特賣主任
住所
買人 氏 名印

- 一 代價拂込何年何月何日限
- 一 物件引渡何年何月何日限
- 一 物件搬出何年何月何日限
- 一 物件引渡場所
- 一 何々

〔契約ヲ要スル條件ヲ列記ス〕

第六號書式

請書

印紙

何國何郡何村大字何々字何々官林
一 何々(樹種等)何々

此代金何程

今般前番ノ通り御拂下相受フ候ニ付テハ明治何年何月官有森林原野及産物特賣規程及左記ノ條

項ヲ承諾シ請書差出シ候也
年月日

住所
買人 氏 名印

當該官廳長
特賣主任 官氏名殿

- 一 代價拂込何年何月何日限
- 一 物件引渡何年何月何日限
- 一 物件搬出何年何月何日限
- 一 物件引渡場所
- 一 何々

〔契約ヲ要スル條件ヲ列記ス〕

第七號書式

證

- 一 何々 何程
- 一 何々 何程
- 右記引渡相成正ニ領收候也
- 年月日

住所
買人 氏 名印

當該官廳長
引渡主任 官氏名殿

官有森林原野及產物處分規則ハ法令類編第三卷第二十類第五丁ニ載ス

官有原野豫約賣渡規則ハ法令類編第三卷第二十九類第十七丁ニ載ス

○官有森林原野及產物特別處分規則中改正追加

加 明治二十四年十月 勅令第二百二號

朕官有森林原野及產物特別處分規則中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年^四勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則中左ノ通改正追加ス

第一條第十七中「木竹」ヲ「主副產物」ニ改ム

第五條 農商務大臣ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制限ヲ付シ地元

人民ニ森林ノ副產物ヲ無料ニテ採取セシムルコトヲ得

第六條 農商務大臣ハ森林手入ノ爲メ採取シタル產物ノ全部又ハ一部ヲ手

入料トシテ下付スルコトヲ得

○明治二十三年訓令第三十四號第二條中加除

明治二十五年四月 農商務省訓令第十號

府縣神奈川縣、靜岡縣、愛知縣、山梨縣、沖繩縣ヲ除ク

明治二十三年七月農商務省訓令第三十四號官有原野豫約賣渡規則第二條中左ノ通刪除追加ス

第二條中「段別五町步已下」ノ下「ナル」ノ字ヲ二刪除シ「ニシテ其地上ノ產物見積代價金三拾圓ヲ超ヘサル」ノ二十二字ヲ追加ス

明治廿二年告示第一號
農務省告示第二號
農務省告示第二號

第三十類 商事

○特許

○明治二十二年告示第一號第七條改正明治二十五年二月
農務省告示第二號

明治二十二年 農務省告示第一號第七條左ノ通改正シ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス
第七條 手数料ハ特許局長ノ通知ニ依リ相當ノ登記印紙ヲ納付書ニ貼用シ消印ノ上特許局ニ差出スヘシ

第三十一類 民事

○登記

○明治二十一年省令第十三號中一厘五厘印紙
追加明治二十五年一月
大藏省令第一號

明治二十一年十月大藏省令第十三號中へ左ノ二種ヲ追加ス
登記印紙ノ定價 印紙ノ種類

壹厘
五厘

綠色
綠色

○財産

○明治二十二年達第四號廢止明治二十五年二月
宮内省達乙第二號

北海道廳府縣並ニ華族

明治二十二年四月當省第四號達ヲ廢ス

○土地ヲ世襲財産ト爲スニハ財産目錄ニ其土地臺帳謄本添付明治二十五年二月
宮内省達乙第二號

華族華族世襲財産法ニ據リ土地ヲ以テ世襲財産ト爲サントスルモノハ財産

明治二十一年省令
第十三號ハ法令類
編第二卷第三十一
類千三百七十三
ス

公證人規則施行條
例ハ法令類編第二
卷第三十一類千三
百二十六丁ニ載ス

目錄ニ其土地臺帳謄本ヲ添付スヘシ

○證書印章

○公證人規則施行條例中追加明治二十五年一月
司法省令第二號

明治十九年八月司法省令甲第二號公證人規則施行條例第一條第一項ニ左ノ通
追加ス
但土地ノ情況ニ因リ五名以下ヲ増置スルコトアル可シ

第三十二類 訴訟

○裁判所

○地方裁判所甲號支部ニテ刑事第二審事務取
扱廢止明治二十四年九月
司法省令第九號

地方裁判所甲號支部ニ於テハ自今刑事第二審ノ事務取扱ヲ廢止ス

○訴訟法

○司法官廳ヨリ起ス民事訴訟ニ附キ國ヲ代表
スル權利委任明治二十四年九月
司法省令第十一號

明治二十四年勅令第三號ニ據リ司法官廳ヨリ起スヘキ民事ノ訴訟ニ於
テハ其訴訟ヲ受クヘキ裁判所ノ檢事局ニ國ヲ代表スル權利ヲ委任ス

○民事訴訟第五百二十二條第五百十三條ニ依リ
テ爲ス送達ノ囑託手續準據方明治二十四年九月
司法省訓令第七號

民事訴訟法第五百二十二條第五百十三條ニ依リテ爲ス送達ノ囑託ニ付キテハ
明治二十三年當省民第九五號訓令ノ手續ニ從フ可キモノトス

第三十二類 訴訟

○土木監督署ノ事務ニ係ル訴訟代表
明治二十四年十一月
内務省令
第二十號

明治二十四年一月勅令第三號第三條ニ據リ土木監督署ノ事務ニ係ル民事訴訟ニ就テハ土木監督長ニ國ヲ代表スルノ權利ヲ委任ス

○那霸地方裁判所及同區裁判所設置法
明治二十四年十二月法律
第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル那霸地方裁判所及那霸區裁判所設置法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
長崎控訴院管内那霸ニ那霸地方裁判所及那霸區裁判所ヲ置キ沖繩縣管内ヲ管轄セシム

○明治廿四年勅令第三號中改正
明治二十五年一月勅令第六號

朕民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年勅令第三號中左ノ通改正ス

第一條 各省北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟

ニ付國ヲ代表ス

第二條 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

○民事訴訟ニ付國ヲ代表スル廳名
明治二十五年一月遞信省令
第三號

郵便局電信局ハ其司掌ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○明治二十四年省令第一號改正
明治二十五年一月農商務省令第二號

大 林 區 署

本年勅令第六號ヲ以テ明治二十四年勅令第三號中改正ニ付同年農商務省令第一號左ノ通改正ス

大林區署ハ官林ニ關スル事件ニシテ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○造幣局各稅關ハ司掌事務民事訴訟ニ附キ國

ヲ代表ス 明治二十五年二月
大藏省令第二號

本年勅令第六號第二條ニ據リ造幣局及各稅關ニ係ル民事訴訟ニ付キ國ヲ代表スル者左ノ通相定ム

造幣局及各稅關ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○各師團屯田兵監督部ハ民事訴訟ニ附キ國ヲ

代表ス 明治二十五年三月
陸軍省令第二號

明治二十五年 勅令第六號第二條ニ據リ各師團監督部屯田兵監督部ハ左ノ區別ニ從ヒ總テノ民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

近衛軍隊並近衛師團司令部參謀本部及其管轄ノ官衙監軍部及其管轄ノ官衙砲兵會議工兵會議憲兵司令部蹄鐵學舍經理學校軍醫學校中央軍馬育成所ニ關スル事項

近衛師團監督部

第一師管内軍隊及陸軍各官衙 近衛師團監督部ニ屬スル軍隊及官衙並陸軍本省東宮武官中央司令部被服廠被服工場學舍千住製絨所ヲ除ク

第一師團監督部

第二師管内軍隊及陸軍各官衙ニ關スル事項

第三師團監督部

第三師管内軍隊及陸軍各官衙ニ關スル事項

第三師團監督部

第四師管内軍隊及陸軍各官衙ニ關スル事項

第四師團監督部

第五師管内軍隊及陸軍各官衙ニ關スル事項

第五師團監督部

第六師管内軍隊及陸軍各官衙ニ關スル事項

第六師團監督部

屯田兵隊及北海道ニ在ル陸軍各官衙ニ關スル事項

屯田兵監督部

○明治二十四年省令第二號中改正 明治二十五年三月
海軍省令第一號

明治二十四年^{三月}海軍省令第二號左ノ通改正ス

各鎮守府造船部兵器部主計部建築部及新原採炭所ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○鐵道廳土木監督署衛生試驗所司掌事務ニ係

ル民事訴訟 明治二十五年四月
内務省令第四號

鐵道廳土木監督署衛生試驗所ハ各共司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

但明治二十四年^七月^七内務省令第九號同年^{十一}月^{十一}内務省令第二十號ハ廢止ス

○檢事局民事訴訟ニ附キ國ヲ代表ス 明治二十五年四月司法省令第五號

司法官廳ヨリ起スヘキ民事ノ訴訟ニ於テハ明治二十五年勅令第六號第二條ニ依リ訴訟ヲ受クヘキ裁判所ノ檢事局ヲシテ國ヲ代表セシム

○鑛山監督署民事訴訟ニ附キ國ヲ代表ス 明治二十五年四月農商務省令第八號

鑛山監督署ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○代言人

○代言人試驗手数料ノ件 明治二十五年七月司法省令第六號

明治十二年司法省甲第一號布達代言人規則ニ依リ試驗ヲ受ケントスル者ハ願書ヲ差出ス際試驗手数料金五圓ヲ納ムヘシ但疾病其他ノ事故ニ因リ試驗ヲ受ケス又ハ試驗ニ落第シタル者ト雖^五既ニ納メタル手数料ハ還付セス手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第三十四類 治罪

○治罪

○刑事控訴手續心得第六條廢止並ニ控訴事件

ニ附被告人護送手續據方 明治二十四年十月
司法省訓令第十二號

裁判所 檢事局

警視廳 府 縣

明治十八年司法省第一〇一八號訓示刑事控訴手續心得第六條ハ廢止ス
但シ控訴事件ニ付被告人ヲ護送スル手續ハ明治十五年五月司法省丙第十八
號達ニ依リ取扱フヘキ儀ト心得ヘシ

第三十五類 監獄

○監獄

○看守長看守禮式 明治二十四年八月
內務省訓令第十九號

廳 府縣
集治監 假留監

看守長及看守禮式ハ本年當省訓令第十五號警察禮式ニ據ラシムヘシ

○監獄支署ニ看守部長ノ職ヲ置ク 明治二十五年
三月內務省訓
令第二號

北海道廳 府縣

監獄支署ニ於テハ戒護上ノ監督ヲ補助セシムル爲ニ看守部長ノ職ヲ置キ月俸拾圓以上ノ看守ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
看守部長ハ看守ノ上班トシ看守長ニ亞クノ待遇ヲ受クヘキモノトス看守部長ハ上衣並外套ノ左腕ニ緋絨 長曲尺一寸五分
幅同 一寸ノ徽章ヲ付スヘシ

明治廿五年十月十三日印刷
同 廿五年十月十五日出版

實價金五十五錢

著作者

千葉縣士族

緩 鹿 實 彰

東京神田區表神保町
十番地寓

發行者

東京府平民

鈴木 敬 親

全 神田區裏神保町
七番地

印刷者

田 中 正 造

全 神田區柳原川岸
十四號地

發行所

東京神田區
裏神保町七番地

明 法 堂









